

平成22年度 第3回国立市中小企業等振興会議 要点記録

- ◇ 日時：平成22年11月15日（月） 午後1時30分～3時30分
- ◇ 会場：市役所第3会議室
- ◇ 出席者：
 - ・ 国立市中小企業等振興会議委員 8名
 - ・ 事務局 3名
 - ・ 傍聴 1名
- ◇ 配布資料
 - ① 次第
 - ② 第2回国立市中小企業等振興会議会議録
 - ③ （仮）中小企業等振興施策一覧表
 - ④ 「日野市工業振興条例」策定にむけたアンケート調査資料（参考資料）
- ◇ 要点記録
 - ・ 会長挨拶

議題1 事務局より産業サポートスクエア・TAMA 視察について報告

（会議同日午前9時から12時30分）

事務局： 本日の午前中に委員6名と事務局2名、そして企業誘致担当から1名の計9名で昭島市東町にある産業サポートスクエア・TAMAへ視察に行った。

午前10時から11時までの1時間はサポートスクエア内の多摩テクノプラザを見学させていただいた。

こちらの施設は中小企業に対する技術支援がメインになっていて、製品の検査機器など企業にとって役に立つ設備が整っており、機械や設備についてどのような使われ方をするのか説明していただいた。

11時から12時までは、同じくサポートスクエア内にある中小企業振興公社多摩支社にて、中小企業に対する経営支援の事業内容説明と、公社施設内のインキュベーションオフィスを見学させていただいた。

インキュベーションオフィスについては創業3年未満の企業を対象に最長3年まで部屋を貸し出す事業で、現在6つある部屋のうち4つは埋まっており、さらに1つが確定済なので、残り1部屋が空いているようである。

家賃は周辺の相場に対し半額程度を目安に設定されていて、広さ40㎡程度で共益費込みの約65,000円であり、電気代とインターネットなどの通信費は自己負担になる。

公社の経営支援とテクノプラザの技術支援も身近で受けられることから、特にものづくり系の企業にとってはかなりの好条件である。

委員： テクノプラザにおいて国産の機械が少なく、最新のものはほとんど外国産であった。

最新の機械では、図面からプラスチック製の小型製品の模型を作ってしまう機械に驚い

た。

薄いシート状のプラスチックを何枚も重ねて形を作るそうだが、中が空洞になっていてさらにその中に歯車が入っている模型もあり、信じられなかったがその機械を使えば1回で作れるそうだ。

会長： 東京芸術大学でも同じようなことをやっているが、機械で彫刻のコピーを作っても、触って比べてみると、本物の彫刻かどうか分かるそうである。

委員： 中小零細企業では設置できない検査設備などが多くあり、それを使えるのは企業にとって役に立つことである。

企業誘致の際にも近くにこのような施設があることを知らせて行くのも良いのではないか。

事業仕分けの対象になっていると言っていたが、そこでやっていることをみんなが知らないことが問題であり、中小企業振興公社についてももっとPRをして利用者を拡大していくべきだと思う。

委員： 現在の場所へ移転する前の振興公社へ行ったことがあるが、やはり設備はすばらしかった。

しかし、説明であったが機械を動かそうとするのに遠くから人を呼ばなければ動かせないというのは非常にもったいない。

委員： 2月に施設がオープンして、もう事業仕分けされるというのももったいない。

全部を活用するまでには時間がかかるし、その間は無駄もあると思うが、もっとPRして広く活用してもらおうようにすべきである。

委員： インキュベーション施設について、実際に入っている企業の見学もさせてもらったが、働いている人たちが生き生きとしていたのが非常に印象的であった。

事務局： テクノプラザの施設利用手数料はホームページから見るができるそうである。

議題2 今後の会議の進め方について

会長： 今年度から小委員会として商業関係とものづくり関係の2つに分け、どちらも4回程度会議を行った。

商業については買い物難民や商店街の空き店舗対策についてなど具体的な話ができ、ものづくりに関しては農業関係者が多いことから主に農業についての話が多かったが、工業については関係者が1人しかいなかったことから難しかった。

今後今の形で進めていくには、商業・ものづくり共に議題が抽象的で、話し合うべきことが多すぎてしまう。

よってここで1度小委員会を再編成し、具体的なテーマを絞ってプロジェクト的に分けるのはいかがか。

委員： 確かに中小企業といっても業種はたくさんあるしあまりに抽象的なので、テーマを絞った方が話しやすいし結論も出しやすい。

委員： 天下市でくにたちグリーンマーケットが国立産のハチミツを使ったラスクを販売したところ850個程度売り、ハチミツについては完売であった。

そのように、国立に来てもらいお金を落としていってもらうようなことをテーマにして

ほしい。

委員： テーマの内容として商店が何を扱っていて、どのようなサービスを行っているのか知ることができるマップを作成したり企画をするというのもいいのではないか。

委員： 本日の資料の中小企業等振興一覧の中でも、それぞれがどのくらいお金がかかっていて他市ではどのようになっているのか調べてみたい。

あと、市内で色々な情報を共有するための1つとしてポータルサイトがあるが、テーマとしてそのような情報などの要素も入れてみると良いと思う。

委員： 情報の共有をするとき1人対複数人のときは SNS やブログなどが有効であり、どのような情報手段で共有するにしても各中小企業のスキルアップが必要である。

委員： 今の時代儲かっているところと厳しいところが両極端になっていて、先日の天下市についても20万人の来客があったそうだが、来て参加してそのまま帰ってしまったのではもったいない。

委員： 農業の関係では昨日農業展があったが、人の出が少なかった。

地元産だからということもう飽きられてしまっているのではないか。

委員： 現在世の中は大変な状況になっていて、このマイナスのスパイラルに対してどのように活性化するのか、正直思いつかない。

委員： 小委員会は長くても半年で機動的にやっていけたらと思うが、まず1つ小委員会を立ち上げて1つのテーマでやっていくのはどうか。

ここで事務局より日野市が製造業に向けて行ったアンケートについて話をさせていただきたい。

事務局： 日野市では事業所の他市への移転を食い止めるべく、アンケートを行い、回答があった事業所に対して、市として何か協力できることはないかヒアリングをして回っている。

国立市においても現在の事業所の実態を知る上でもやらなければならないことと考えている

そこでこの中小企業等実行委員会にもご協力をいただきながら進めていきたいと思い、まずはアンケートの内容について考えてもらいたい。

委員： 過去と少し古くても現在の事業所数がわかれば、実態調査をしなくても議論はできるのではないか。

事務局： 実態調査といっても事業所の業種や数を知るだけではなく、現在製造業が抱えている問題等を知るためでもある。

数を知るだけであれば東京都が調査をしているので、すぐに出せる。

委員： 大規模な製造業は目立つが、国立は小規模な製造業がメインであるため、そこを見れば国立の弱みや強みも見えてくるかもしれない。

委員： 電信柱がなかったり、きちんと駐輪場が完備されているように都市インフラ整備がしっかりしているところは商店もにぎわっている。

国立は国立自体がブランドになっている点が強みである。

委員： 実態の調査はこの会議が始まる前にやってくれていけば、それを元にして話し合いができた。

会 長： それでは小委員会のテーマと日程については本日出た話を元に事務局と詰めていきたいと思う。

委 員： 5年前・10年前と比較できるような調査にしてほしい。

実態調査のアンケートの内容を考えていくうえでも、今あるデータでいいので、世の中の動きがある程度わかるものが欲しい。

会 長： では、近いうちに推移が分かる形の東京都が行った事業所数調査とアンケート調査案を事務局が作り、各委員に送付するので、その後来年の1月に来れる人だけという形で小委員会を開き、アンケート内容を詰めていくことにする。

親会議については2月に開催する。